

AC

Inv. 12/1/11 - Kassai et al.
our Docket 4628

SEAT OF INFANT UTENSIL

Patent Number: JP9086417
Publication date: 1997-03-31
Inventor(s): ONISHI ICHIRO
Applicant(s): APRICA KASSAI INC
Requested Patent: JP9086417
Application Number: JP19950244022 19950922
Priority Number(s):
IPC Classification: B62B9/10
EC Classification:
Equivalents: JP3272916B2

Abstract

PROBLEM TO BE SOLVED: To enable an infant sitting on his/her seat to avoid such a danger as collision of his/her elbow and/or arm with some external obstacle caused by its outward protrusion beyond hand rail(s), in case of an infant utensil such as a baby carriage provided with a seat.
SOLUTION: Side walls 6 extending near a seat 3 are provided inside of a pair of respective hand rails 5 and armrest parts 7 are attached to those side wall 6. Each armrest part 7 is positioned below the upper surface of each hand rail and stretched inward so as to support the elbow of an infant on it naturally. The armrest part 7 is given cushioning ability by which comfortable feeling is given to the infant and its function to absorb any external shock is also given thereto.

Data supplied from the esp@cenet database - I2

USPS EXPRESS MAIL
EV 338 198 867 US
JANUARY 6 2004

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平9-86417

(43) 公開日 平成9年(1997)3月31日

(51) Int.Cl.⁵

B 6 2 B 9/10

識別記号

庁内整理番号

F I

B 6 2 B 9/10

技術表示箇所

A

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平7-244022

(22) 出願日 平成7年(1995)9月22日

(71) 出願人 390006231

アップリカ▲葛▼西株式会社

大阪府大阪市中央区島之内1丁目13-13

(72) 発明者 大西 伊知朗

大阪市中央区島之内1丁目13番13号 アッ

プリカ▲葛▼西株式会社内

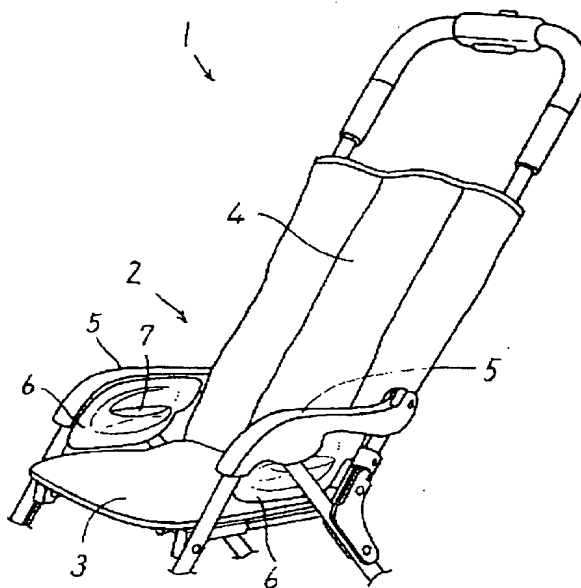
(74) 代理人 弁理士 小柴 雅昭

(54) 【発明の名称】 育児器具の座席

(57) 【要約】

【目的】 乳母車等の座席を備える育児器具において、着座している乳幼児の肘や腕が手摺の外側にはみ出したために、外部の障害物等によつかるといった危険を回避できるようにする。

【構成】 1対の手摺5の各々の内側に、座部3の近傍にまで延びる側壁6を設け、これら側壁6に、肘掛け部7を設ける。肘掛け部7は、手摺5の上面より低い位置にあり、内方へ張り出していて、乳幼児の肘を自然に乗せられるようにする。肘掛け部7にはクッション性を与えられ、それによって、乳幼児に対して、快適な感触を与えるとともに、外部からの衝撃を吸収する機能も与えられる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 座部と、前記座部の後方から立ち上がる背もたれ部と、前記座部の両側の上方の位置に配置されかつ前後方向に延びる1対の手摺とを備える、育児器具の座席において、

前記1対の手摺の各々の内側には、前記座部の近傍にまで延びる側壁が設けられ、前記側壁には、肘掛け部が前記手摺の上面より低い位置で内方へ張り出すように設けられ、さらに、少なくとも前記肘掛け部には、クッション性が与えられたことを特徴とする、育児器具の座席。

【請求項2】 前記側壁および前記肘掛け部は、クッション性を有する構造をもって一体に形成されている、請求項1に記載の育児器具の座席。

【請求項3】 前記側壁は、外部からの衝撃によりへこむことが可能な板材から構成され、前記肘掛け部は、前記板材の一部を膨出させることにより形成されている、請求項2に記載の育児器具の座席。

【請求項4】 前記側壁および前記肘掛け部は、クッション性を有する材料から一体に形成され、前記肘掛け部は前記側壁の一部を肉厚にすることによってその形状が与えられている、請求項2に記載の育児器具の座席。

【請求項5】 前記側壁は、板材から構成され、前記肘掛け部は、全体としてクッション性を有しかつ前記側壁に取り付けられている、請求項1に記載の育児器具の座席。

【発明の詳細な説明】**【0001】**

【発明の属する技術分野】この発明は、たとえば、乳母車、乳幼児用椅子、椅子付きブランコ、等の育児器具に備える座席に関するもので、特に、当該座席に着座する乳幼児に対する安全性および快適性を高めるための改良に関するものである。

【0002】

【従来の技術】たとえば、乳母車、乳幼児用椅子、椅子付きブランコ、等の育児器具に備える座席は、一般に、座部と、この座部の後方から立ち上がる背もたれ部と、座部の両側の上方の位置に配置されかつ前後方向に延びる1対の手摺とを備える。背もたれ部がリクライニング可能とされるものもある。

【0003】このような育児器具では、そこに着座する乳幼児の安全性および快適性を確保するため、特に座席の構造に対して種々の配慮が払われている。たとえば、座部および背もたれ部には、クッション性がもたされ、乳幼児に対して快適さが与えられるとともに、外部からの衝撃を吸収して安全性が確保されるように配慮されている。特に、乳幼児の頭部まわりでは、後頭部、頭頂部および側頭部のすべてにおいて、外部からの衝撃を吸収し、より高い安全性が確保できるようにされたものも提案されている。

【0004】座部の両側に位置する手摺も、安全性を与

える手段の一つとして機能している。すなわち、手摺は、育児器具の側方からの障害物の進入を防止するとともに、座席から側方へ乳幼児が転落することを防止している。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】上述した手摺は、それが与える安全性をより完全に発揮させるためには、ある程度以上の高さを有していなければならない。したがって、このような手摺は、乳幼児のための肘掛けとして使用するには高すぎ、もはや肘掛けとしては適正に使用できない状態となっていることがある。それにもかかわらず、これら手摺をあえて肘掛けとして使用すると、乳幼児は、肘を張ったり、両腕を伸ばした姿勢となることが多い。

【0006】しかしながら、上述したような乳幼児の姿勢は、乳幼児を多かれ少なかれ疲れさせるばかりでなく、しばしば乳幼児の肘または腕を手摺より外側に位置させることになるので、肘または腕を外部の障害物にぶつける危険がある。そこで、この発明の目的は、手摺において安全性を発揮し得る高さを確保しながら、乳幼児の肘や腕をより快適に保ちかつこれら肘や腕に受け得る上述の危険を防止し得る、育児器具の座席を提供しようとするものである。

【0007】

【課題を解決するための手段】この発明は、座部と、この座部の後方から立ち上がる背もたれ部と、座部の両側の上方の位置に配置されかつ前後方向に延びる1対の手摺とを備える、育児器具の座席に向けられるものであって、上述した技術的課題を解決するため、上述の1対の手摺の各々の内側には、座部の近傍にまで延びる側壁が設けられ、これら側壁には、肘掛け部が手摺の上面より低い位置で内方へ張り出すように設けられ、さらに、少なくともこれら肘掛け部には、クッション性が与えられたことを特徴としている。

【0008】この発明による実施形態では、上述した側壁および肘掛け部は、次のような構成をもって与えられる。すなわち、第1の実施形態では、側壁および肘掛け部は、クッション性を有する構造をもって一体に形成される。この第1の実施形態は、さらに、次のようなより具体的な実施形態を含む。すなわち、側壁は、外部からの衝撃によりへこむことが可能な板材から構成され、肘掛け部は、板材の一部を膨出させることにより形成されることも、あるいは、側壁および肘掛け部は、クッション性を有する材料から一体に形成され、肘掛け部は側壁の一部を肉厚にすることによってその形状が与えられることもある。他方、第2の実施形態では、側壁は、板材から構成され、肘掛け部は、全体としてクッション性を有しかつ側壁に取り付けられる。

【0009】

【発明の効果】この発明によれば、手摺の内側において

肘掛け部が設けられるので、座席に着座している乳幼児は、これら肘掛け部に自然に肘を掛けるようになり、手摺上に肘や腕を乗せる場合に比べて楽な姿勢をとることができる。また、これら肘掛け部は、手摺の内側であって手摺の上面より低い位置に設けられているので、乳幼児の肘または腕を手摺より外側に位置させることは、手摺によって確実に防止される。したがって、乳幼児の肘または腕を外部の障害物につける危険がなく、安全性がさらに向上される。

【0010】なお、乳母車にあっては、これを押すための握り部を形成するハンドルが、乳幼児に対して背面押しの状態と対面押しの状態とに切り換えることができるように、前後方向に回転可能に設けられたものもあるが、このような構造の場合、手摺の外側方でハンドルが動作するのが一般的である。したがって、乳幼児が肘または腕を手摺より外側に位置させているとき、不注意にもハンドルを動作させてしまうと、ハンドルと手摺との間に肘または腕が挟まれる虞もあるが、この発明によれば、このような事故を有利に防止することができる。

【0011】また、この発明によれば、上述のように、乳幼児の肘を乗せる場所が肘掛け部によって確保されるので、乳幼児の体格を考慮することなく、安全性のみを考慮して手摺の位置を高くすることができる。この点においても、安全性を高めることができる。また、この発明によれば、少なくとも肘掛け部において、クッション性がもたされているので、乳幼児に対して好ましい感触を与えることができるとともに、外部からの衝撃を吸収する作用も果たし、この点でも、安全性の向上に寄与し得る。

【0012】また、この発明によれば、手摺の内側には、座部の近傍にまで延びる側壁が設けられるので、着座している乳幼児が手摺の下方の空間に手もしくは指または足を入れたりすることを防止できる。すなわち、育児器具においては、通常、このような手摺の下方の空間に、手摺を支え、また育児器具の構造を維持するためのいくつかの骨組部材が位置しており、これら骨組部材の間には、乳幼児の手もしくは指または足などを挿入できる程度の隙間が形成されることがあるが、この発明によれば、側壁がこのような手摺の下方の空間を覆うので、乳幼児が偶発的に手摺の下方の空間に手もしくは指または足を入れたりすることを防止できる。この点でも、安全性の高いものとすることができる。

【0013】この発明において、前述したように、側壁が外部からの衝撃によりへこむことが可能な板材から構成され、肘掛け部が板材の一部を膨出させることにより形成されたり、あるいは、側壁および肘掛け部がクッション性を有する材料から一体に形成され、肘掛け部が側壁の一部を肉厚にすることによって形成されるなどして、側壁および肘掛け部がクッション性を有する構造をもって一体に形成されると、部品点数の増加や育児器具

の重量化をそれほど招くことなく、この発明による特徴的構成を実現することができる。

【0014】

【発明の実施の形態】図1および図2は、この発明の一実施形態による育児器具の座席を説明するためのものである。これらの図面には、育児器具の一例としての乳母車1の一部が示されている。図1に示すように、乳母車1は、座席2を備える。座席2は、座部3と、座部3の後方から立ち上がる背もたれ部4と、座部3の両側の上方の位置に配置されかつ前後方向に延びる1対の手摺5とを備える。一方の手摺5の断面図が図2に示されている。

【0015】図1および図2に示すように、1対の手摺5の各々の内側には、座部3の近傍にまで延びる側壁6が設けられる。これら側壁6には、肘掛け部7が内方へ張り出すように設けられている。肘掛け部7は、手摺5の上面より低い位置にある。この実施形態では、図2によく示されているように、側壁6は、板材8から構成され、この板材8の一部を膨出させることにより、肘掛け部7が形成されている。板材8は、たとえば、適当な腰のある発泡ウレタンのような樹脂板に布等の表面材が貼付されたものから構成され、外部からの衝撃によりへこむことが可能である。その結果、側壁6だけでなく、肘掛け部7には、クッション性が与えられる。また、側壁6を手摺5に取り付けるにあたっては、たとえば、スナップ的に嵌合可能な樹脂からなるリベット9が用いられる。

【0016】図3は、この発明の他の実施形態を示す、図2に相当の図である。図3において、図2に示した要素に相当する要素には同様の参照符号を付し、重複する説明は省略する。図3に示した実施形態では、側壁6aは、板材から構成される。この板材は、図2に示した板材8と同様、外部からの衝撃によりへこむことが可能な材料から構成されても、あるいは硬質プラスチックのような比較的剛性の高い材料から構成されてもよい。側壁6aは、前述したリベット9と同様のリベット10により、手摺5に取り付けられる。

【0017】このような側壁6aの内側には、全体としてクッション性を有する肘掛け部7aがたとえばリベット11により取り付けられる。肘掛け部7aは、たとえば、発泡樹脂を含み、その外表面は、必要に応じて布等で覆われる。この肘掛け部7aも、前述した肘掛け部7と同様、手摺5の上面より低い位置で内方へ張り出している。

【0018】図4は、この発明のさらに他の実施形態を示す、図2に相当の図である。図4において、図2に示した要素に相当する要素には同様の参照符号を付し、重複する説明は省略する。図4に示した実施形態では、図2に示した実施形態と同様、側壁6bおよび肘掛け部7bは、クッション性を有する構造をもって一体に形成さ

れている。より具体的には、側壁6bおよび肘掛け部7bは、たとえば発泡樹脂のようなクッション性を有する材料から一体に形成され、肘掛け部7bは側壁6bの一部を肉厚にすることによってその形状が与えられている。この肘掛け部7bも、前述した肘掛け部7と同様、手摺5の上面より低い位置で内方へ張り出している。なお、側壁6bおよび肘掛け部7bの外表面は、必要に応じて布等で覆われる。また、側壁6bは、前述したリベット9と同様のリベット12により、手摺5に取り付けられる。

【0019】なお、側壁および肘掛け部がクッション性を有する構造をもって一体に形成される構造は、図2に示した構造あるいは図4に示した構造には限らない。たとえば、図4に示した側壁6bおよび肘掛け部7bの外形状をそのまま有する構造物をブロー成形等により成形して中空の構造を得るようにし、それによってクッション性を与えるようにしてもよい。

【0020】以上、この発明を図示した乳母車に適用された実施形態に関連して説明したが、この発明は、乳母車の他、たとえば、乳幼児用椅子、椅子付ブランコ、等

の育児器具にも適用することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】この発明の一実施形態による座席2を備える乳母車1の一部を示す斜視図である。

【図2】図1に示した座席2の一方の手摺5を示す断面図である。

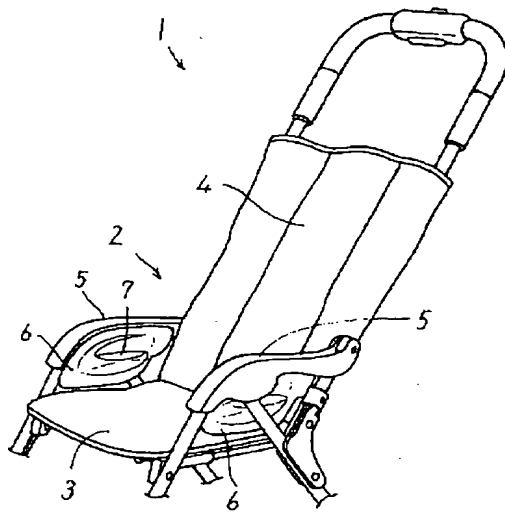
【図3】この発明の他の実施形態を示す、図2に相当の図である。

【図4】この発明のさらに他の実施形態を示す、図2に相当の図である。

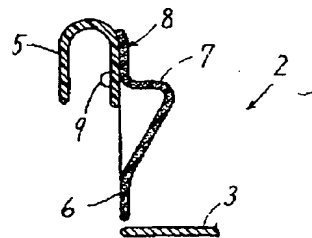
【符号の説明】

- 1 乳母車
- 2 座席
- 3 座部
- 4 背もたれ部
- 5 手摺
- 6, 6a, 6b 側壁
- 7, 7a, 7b 肘掛け部
- 8 板材

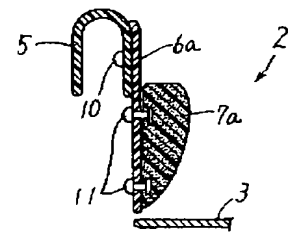
【図1】



【図2】



【図3】



【図4】

